

総合日本語コース報告 (2018年10月～2019年8月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級及び中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2018年10月に15期目の学生を迎えた。

以下、2018年度秋期(2018年10月～2019年2月)及び春期(2019年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講学生

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2018年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は4人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインドネシア、チリ、ベトナム、ベルギー各1人で、所属は人文学部と人間発達科学部各2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2018年度は秋期に上級9科目と中級6科目、春期に上級9科目と中級7科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2018年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は11科目が2人(1人は秋期5, 春期6, もう1人は秋期4, 春期7), 9科目(秋期5, 春期4)が1人, 8科目(秋期4, 春期4)が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は17人で、出身国・地域別の内訳は中国が9人、台湾が3人、韓国とロシアが各2人、ベトナムが1人、所属別の内訳は人文学部が8人、人文科学研究科が3人、経済学研究科が2人、経済学部、人間発達科学部、工学部、人間発達科学研究科が各1人だった。春期は20人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、台湾が5人、韓国が3人、ロシアが3人、アメリカとベトナムが各1人、所属別の内訳は人文学部が9人、経済学研究科が4人、経済学部が3人、人間発達科学部2人、人文科学研究科と人間発達科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は7科目が1人, 5科目が2人, 4科目が2人, 3科目が4人, 2科目が1人, 1科目が7人, 春期は8科目が1人, 7科目が6人, 6科目が1人, 5科目が2人, 4科目が4人, 3科目が2人, 2科目が1人, 1科目が3人だった。

3 担当者

秋期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、及び、非常勤講師6人（高島智美、田上栄子、中河和子、中野香保里、藤田佐和子、要門美規）、春期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、及び、非常勤講師5人（高島智美、中河和子、水田佳歩、要門美規、横堀慶子）が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は、2018年10月9日（火）～2019年2月8日（金）を授業期間、2月12日（火）～2月18日（月）を補講期間とした。12月25日（火）～1月4日（金）は冬季休業、1月18日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月21日（水）と1月15日（火）は月曜日、11月22日（木）は金曜日の授業を行い、2月4日（月）は休講とした。春期は、2019年4月11日（木）～8月2日（金）を授業期間、8月5日（月）～8月9日（金）を補講期間とした。曜日調整のため、5月9日（木）と7月12日（金）は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2018年10月4日（水）、春期は2019年4月4日（木）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際機構ホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は授業開始後2週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは、上級及び中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル、Bのついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2018年10月～2019年8月）

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期：読解 C2a (火4)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。
秋期：読解 C2b (木4)[田中] 春期：読解 C1 (木4)[田中]	大学での研究活動に必要な専門書、論文の読解能力の養成を目指して、様々な話題に関する文章を読み、仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに、新聞・雑誌記事や教養書を要約し、その内容をグループで討論することによって、批判的思考力を身につける。
秋期：文法 C2 (木2)[濱田] 春期：文法 C1a (木1)[濱田] 文法 C1b (木2)[濱田]	大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験 レベルアップトレーニング 文法 N1』（アルク）、春期は文法 C1a で『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）、文法 C1b で『TRY! 日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）を主教材として使用する。

秋期：作文 C2 (月 3)[田上] 春期：作文 C1 (木 3)[要門]	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期：聴解 C2 (水 3)[要門] 春期：聴解 C1 (火 3)[要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (火 3)[高畠] 春期：会話 C1 (水 3)[高畠]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 4)[濱田] 春期：漢字 C1 (火 2)[濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) を主教材として使用する。
秋期：表現技術 C2 (月 2)[濱田] 春期：表現技術 C1 (月 3)[濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (水 4)[中河] 春期：日本文化 C1 (水 4)[中河]	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読み取り、整理など)を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (火 1・2) [高畠], b (水 1・2)[中河] 春期：文法・表現 B1a (水 1・2) [中河], b (木 1・2)[要門]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社) を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (木 1・2) [副島], b (金 1・2)[中野] 春期：文法・読解 B1a (火 1・2) [副島], b (金 1・2)[副島]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (月 1・2)[副島] 春期：文法 B1 (金 3)[田中]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：作文 B2 (木 3) [濱田] 春期：作文 B1 (木 3) [田中]	自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだあと、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。
秋期：聴解・会話 B2 (火 3)[副島]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送るうえで必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話を聞き取る練習をしながら、口語的な表現への理解を深め、それらを場面や人間関係に応じて使えるよう練習する。
春期：聴解・会話 B1 (月 3)[横堀]	中級レベルに必要なオーラル・コミュニケーション能力を伸ばすことを目的として、話すことに焦点を置き、ディスカッション、ショート・プレゼンテーションなど様々なタスクを行う
秋期：漢字 B2 (月 3)[濱田] 春期：漢字 B1a (月 4)[濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) を主教材として使用する。
春期：漢字 B1b (火 3)[水田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『新版 BASIC KANJI BOOK』 Vol.2 (凡人社) を主教材として使用する

*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、文法 B1、聴解・会話 B2・B1、作文 B2・B1、漢字 B2・B1ab) あるいは 180 分 (文法・表現 B2ab・B1ab、文法・読解 B2ab・B1ab、文法 B2) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級及び中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。8月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行った。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2019年1月29日（火）～30日（水）、2月7日（木）、7月29日（月）、7月30日（水）～8月1日（木）、調査対象：2018年度日本語・日本文化研修留学生（4人）、協定校からの短期留学生（18人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> ・十分だった。(20人) ・中級クラスでは聴解の授業が全然なかった。日本人と会話して、それは本当に楽しかったけど、聴解の練習がなかった。 ・日本人と交流できる授業があると思う。
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよかった。(10人) ・大丈夫だったけど、「文法・表現 B1a」はちょっと簡単だった。 ・ちょうどよかったと思う。「文法・表現 B1a」は易しかった。ほかの学生と日本語のレベルが違い、ほかの学生が理解できるように日本語でディスカッションするのが難しかった ・ちょうどよかったと思う。「文法・表現 B1a」は易しかったが、「会話 C1」は難しかった。 ・中級はちょうどよかった。特に復習みたいになった。上級はちょっと難しいけど、いろいろ役に立った。 ・中級のはじめはちょっと簡単だった。上級はちょうどよかった。 ・中級のはじめはちょっと簡単すぎたと思った。上級はちょうどよかった。上級の文法を C1a と C1b、N2 と N1 の2つから選ぶのはいいと思う。 ・日本語能力試験に適当だった。ちょうどよかった。 ・私にとって、ちょうどよかったと思う。たとえば漢字 C2 の授業では、クラスで勉強する漢字の20% ぐらいしか知らなかったので、私にはちょうどよかった。 ・上級は自分の能力が低かったのが難しかったが、他の人にとってはちょうどよかったと思う。 ・上級クラスもちょっと易しかった。 ・上級クラスもちょっと易しすぎた。 ・上級クラスでもっと難しい内容を勉強したい。
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い点を伸ばすことができるような科目を選んだ。(7人) ・自分があまり詳しく知っていない、難しいことについて、もっと勉強したらいいと思って選んだ。 ・自分の日本語がうまくなるような授業を選んだ。 ・自分が学びたい内容を選んだ。 ・自分が学びたい内容とテストのやり方で選んだ。 ・シラバスを見て、レポートと試験が少ないものを選んだ。 ・日本語能力のレベルと授業内容で選んだ。 ・いろいろな点から勉強したいから、いろいろな種類の授業を選んだ。N2 を受けたいから「文法 C1a」を選んだ。 ・自分が必要なものと時間割で選んだが、週2日行かないといけないクラスは大変だった。 ・コミュニケーションの力を伸ばせる授業を取ろうと思ったけど、専門の時間割とあわなくて、時間割を考えて選んだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ毎日たくさんの科目を選びたかったけど、たとえば専門があるとき選べなかったの、それで自分のレベルとは違う「文法・表現 C1a」を選んだ。それ以外は自分の日本語のレベルにあわせて選んだ。 ・いろいろな種類の授業を取りたかった。表現も文法も聴解も読解も学びたかった。「文法 C1a」を選んだのは能力試験に合格したいから。自分の苦手な点、話す力をのばすため、「会話 C1」の授業を選んだ。 ・科目を選ぶときは、バランスについて考えた。母国の大学では、授業で書くチャンスが少なかったから、作文を選んだ。聴解と会話の授業については、ここは日本だから日本人とチャンスが多いから選ばなかった。最初に学部の先生から5科目取るように言われて5科目取ったが、もう1つ聴解も取ればよかったと思う。 ・母国の大学の日本語の先生が選んでくれた。 ・授業に出てみて、先生がやさしくて説明がわかりやすいから選んだ。 ・母国の大学で単位が交換できるように、名前が似ている科目、たとえば、読解、会話、文法を選んだ。
<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴く能力が大変伸びた。 ・ちょっとアップした。今もまだ十分に話せないが、テレビ番組を見て、聞き取れるようになった。 ・ちょっとアップした。ゼミで先生と話すときは、だんだんわかるようになった。 ・聴く能力が伸びた。文法もたくさんわかるようになった。 ・聞き取り、言葉の数、文法の力が伸びた。 ・伸びたと思う。聴く力がついた。日本人の友達と簡単な会話ができるようになった。 ・特に聞き取りが伸びた。全体的なニュアンスがわかるようになった。そして、日本語の中にある日本文化を理解することもできるようになったと思うし、適切な日本語を選ぶようになった。最後に、漢字もちょっと読めるようになった。 ・会話と聴解能力が伸びた。 ・会話と日本人と話す力が伸びた。 ・特に会話がすごく伸びた。 ・少し伸びた。日本に来る前は日本語でしゃべる自信がなかったけど、日本に来て自信がついてきた。 ・伸びたと思う。最初はあまり話すことができなかった。いろいろな友だちと日本語で話しながらだんだんうまくなったと思った。話す力がついた。 ・日常会話の力が伸びた。語彙も増えた。 ・もちろん話すことが伸びた。日本に来る前、話すとき自信がなかったが、今は自信がある。そして、読むことも伸びた。 ・ぜったい会話力、あと漢字とか伸びた。 ・伸びたと思う。みんなより上手ではないけど、日本語を話す能力、そして、日本でいろいろな発表があるので、発表する力が伸びた。 ・話すことも読むことも伸びた。今、テキストを速く見て、意味がわかるようになった。以前は難しかったけど、伸びたと思う。 ・話す、聴く、読む、書く、全部、伸びた。 ・敬語のレベルが伸びた。会話もどんどん慣れてきた。 ・読むこと、漢字とか、伸びた。 ・伸びたと思う。テキストを読むとき、日本に来る前は、日本語でメールが来たら、Google 翻訳に入れて母語に翻訳して読んでいたが、今は日本語で読むのが怖くなくなった。わからないことはまだたくさんあるが、恐れず辞書を引いて読むようになった。 ・読解と作文とレポートを書く能力が伸びた。
<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。 ・来てよかったと思う。日本の勉強をするため、留学するのは一番いい方法だと思うので、ちょうどよかった。 ・私はこの留学で日本に初めて来たけど、富山大学は本当にいいと思う。いろいろあって、富山県のいろいろなところへ行って、富山への留学はよかったと思う。 ・よかった。静かな環境とか授業とか全部よかった。 ・もともと空気がきれいな地方に行きたかった。そして、家賃も安いのが一番大事で、この点でも富山はよかった。 ・楽しかった。富山の自然が多いところが好きだ。友達と遊んで、いろいろな国の友達ができた。 ・よかった。富山にはいろいろなきれいな景色がある。たとえば、環水公園や、黒部などとてもきれいだ。みんなやさしい。友達と一緒に遊んだ。アカペラのサークルも楽しかった。 ・本当によかった。富山は住みやすい。大学の寮も住みやすい。全部といいと思う。授業とか。いろいろな活動があるとか。 ・本当に満足している。この大学では日本語の授業だけでなく、専門の授業もあって、日本人といっしょに授業を受けられるチャンスがあるから。

	<ul style="list-style-type: none"> ・私はずっと大きい町に慣れているんだけど、富山の静けさはちょうどよかった。特に勉強できる環境としてよかった。家賃も安いのもよかった。たまたま東京に行けるのもよかった。 ・富山は自然がいい。緑がいっぱいある。毎日山が見えるのがいい。私のふるさととは山がなくて、山を見たいときは観光地へ行かないといけませんが、今はただで毎日山を見られる。富山大学の図書館には本もたくさんあって、とても便利だった。書庫にも論文の資料がたくさんあって、論文を書くためにとても役に立った。 ・最初はさびしかった。今は慣れたので楽しかった。 ・よかった。富山のいい静かな環境があるから、富山を選んだ。最初は友達とかいなくて、自分にとって新しいことがたくさんで大変だったけど、だんだん生活に慣れてきて、今は日本の生活のほうがよくなった。 ・母国での私の普通の生活とずいぶん違った。母国ではストレスがすごくあった。どんな将来かわからなくて、これでいいのかと考えて、落ち込むことが多かったけど、日本に来てストレスがなくなった。日本にいるのは半年だけだから、むだにしないようにと思って、新しい人と会って、4つのサークルに入って、一期一会という感じで生活していた。落ち込む暇がなかった。日本に来て、少し性格が変わったかもしれない。もっと明るく前向きになったと思う。 ・楽しかった。自分の国ではなく、外国で生活することが全部新しく楽しかった。外国で生活するのは初めてだった。困ったことは交通。自転車がなくなってから、借りていた自転車を返したあと、一緒に歩いてもらったりして、周りの人に迷惑をかけた。 ・よかった。寮からスーパーがもっと近かったらよかったけど、他には困ったことはなかった。富山は田舎だから、近所のお年寄りが「おはようございます」と言ってくれたのがうれしかった。 ・富山はいいところだ。とても静かなところで、生活しやすい。でも、東京とちょっと距離が遠いので、料金と時間がかかるのが不便だと思う。 ・よかったことは奨学金がもらえることと、チューターがいっぱいて助けてもらえることと、寮の家賃も安いので金銭的にもいいと思う。でも、富山は田舎なので、旅行したいと思ったら、時間と費用の問題があった。専門では課題がいつもあるから、それがちょっと大変だった。 ・冬はとても不便だったが、富山は友達、先生、バスの運転手もやさしかった。 ・最初は富山がどんなところか全然わからなくて、来て田舎でびっくりした。富山は景色がきれいなところだ。冬のときはすごく大変だった。雪は初めてで、寒さも苦手で大変だった。それに、交通が大変だった。あちらこちらに行くのが車がないと不便だった。富山のいいところは、田んぼの緑がとてもきれいで、自然がきれいなこと。そして、白エビがとてもおいしかった。 ・不便なところは電気料金がとても高いことで、1か月の電気料金が国の6か月分だった。いいところは、私は富山以外に東京、大阪、北海道などに行ったが、富山の人は他のところの人よりとてもやさしかった。ここで留学したのはよかった。 ・一番困ったのは、住んでいる会館が学校からちょっと遠かった。学校まで15～20分かかかるので、雨または雪が降ると、歩くしかないのが、ちょっと辛い。よかったことは、コンビニでバイトをしたので、いろいろな友達ができ、日本人の友達も外国人の友達もできた。専門の勉強はほとんど図書館で行ったので、ゼミでの友達はできなかった。
--	--

まず、コースの開講科目数については大半の学生が十分だったという回答だったが、中級クラスの受講者から聴解の練習が少なかったという指摘があった。中級クラス「聴解・会話」は、以前は聴解と会話の各技能に重点を置いた授業を週2コマ開講していたが、予算の問題から週1コマ開講となり、聴解の練習に十分に時間が取れなかったことが影響としていると思われる。

次に、コースのレベルについては全体的にはちょうどよかったという回答が多かったが、易しかった、難しかったという声も聞かれた。これまで中級クラスと上級クラスの間レベルのクラスを希望する学生が多かったことから、今回初めて春期の上級クラス「文法」の授業をレベル別に2科目開講したところ、学生からの評価もよかった。ただ、上級クラスについては易しかったという声も聞かれ、よりレベルの高い授業を希望する学生も複数見られた。

科目選択の際に重視した点として多かったのは、自身の弱い点を伸ばそうと考えて選んだという回答が最も多く、他には時間帯、自身の興味、内容といった回答も複数見られた。

自身の日本語能力については大半の学生が伸びたと答え、特に聞く、話す力の伸びを挙げる学生が多く、日本に来て、自身の日本語能力に自信が持てるようになったというコメントも複数見られた。

最後に、富山での留学生活については、静かな環境、豊かな自然、生活のしやすさ、人々のやさしさをよさとして挙げる学生が多かった。一方、困った点としては、交通の不便さを挙げる学生が多かった。

8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級クラスに加えて新たに中級クラスの提供を始め、今回第15期はその4年目である。総合日本語コースは上級クラスの受講者が多く、第15期についても秋期は上級クラスが18人、中級クラスが4人（うち1人は上級クラスも受講）、春期は上級クラスが17人、中級クラスが12人（うち5人は上級クラスも受講）と、上級クラスのほうが多かったが、春期については中級クラスの受講者も多く、これまでで最多であった。短期留学生の多くは9月末に来日し、1年間富山で留学生活を送るが、第15期は4月に来日した留学期間半年の短期留学生で総合日本語コース中級クラスを受講する学生が例年よりも多かった。今後も4月来日の学生が増えるようであれば、春期中級クラスの授業内容を検討していかなければならないだろう。中級、上級クラスともに、以前よりも学習者の日本語力、ニーズが多様になっており、それらにどう対応していくかが一番の課題である。今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、よりよいコース提供の在り方を探っていききたい。